

住宅、自動車とも二ケ多増加 銅の地金、スクラップとも大幅増

橋本金属 アルミ橋本健一郎氏リポート①

■概況

二月前半は一月のADP全米雇用リポートで非農業部門の雇用者数(政府部門除く)が前月比一七万五、〇〇〇人増となり、市場予想(一八万九、〇〇〇人程度の増加)に届かなかった事や、十二月のユーロ圏失業率は一二%でいまだ高水準の失業率だった事などマイナスマテリアルはあったが、ECBが政策金利を〇・二五%に据え置き、国債買入の不胎化を見送ったこと、一月の中国の貿易統計で、輸出入が市場予想を上回って伸び、中国景気の減速懸念が後退、一月の中国貿易黒字が三一九億ドルと予想の二二六・五億ドルを上回り、輸出は前年同月比一〇・六%増加、輸入は一〇%増加と予想の一桁プラスを大幅に上回ったことや、中国の一月の銅および銅製品輸入は前年同月比五三・二%増の五三万六、〇〇〇トンだったことを好感、LME銅相場は七、一七六ドル(セツル)と前月最終価格より二二ドル上げての前半締めとなった。

後半は一月の中国CPIは前年比二・五%上昇、事前予想の二・三%上昇を上回り、中国の一月の元建て新規融資額が一兆三、二〇〇億元と昨年の一兆〇、七〇〇億元から大幅増加するなどプラス材料もあったが、中国人民銀行が八カ月ぶりにレポを実施し資金吸収したこと、二月の中国HSBC製造業PMI速報値は四八・三に低下、七カ月ぶり低水準だったことのほか、中国の複数の銀行が不動産創投資を抑制したとの報道や、一月の中国新築住宅価格は前年比九・六%上昇、前月の九・九%上昇を下回ったこと、ウクライナ情勢の緊迫などから下落、LME銅相場は三月四日現在、前半締めから一四三・五ドル暴落の七、〇三二・五〇ドル、銅建値は七十七万円のスタートとなった。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート(TTM)
一〇・九六→一〇・二〇八(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一四・五%増の八六万〇、八〇三台であった。

◆自動車販売台数

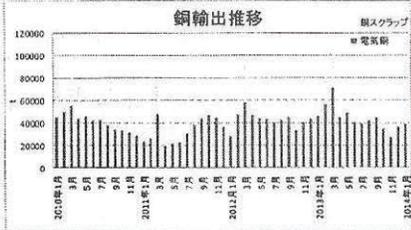
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一五%増の三三万六、一七六台。

◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一二・三%増の七万七、八四三戸であった。

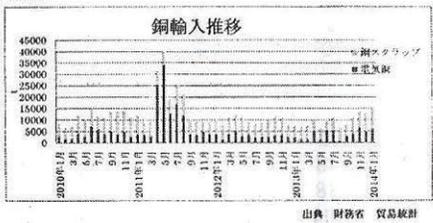
◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が一六・七%減の三万八、六〇〇t、スクラップが四五・三%減の二万二、八三八t。輸入は電気銅が前年比二七八・八%増の五、九一八t、スクラップ七六・三%増の九、四一三t。

	11月	12月	1月
輸出			
電気銅	2万7156 t	3万6330 t	3万8800 t
前年比	-33.6%	-16.3%	-16.7%
スクラップ	2万5090 t	2万2414 t	1万2838 t
前年比	-11.7%	-24.8%	-45.3%
輸出推移			



	11月	12月	1月
輸入			
電気銅	6643 t	4817 t	5918 t
前年比	+98.7%	+85.3%	+178.8%
スクラップ	6976 t	8091 t	9413 t
前年比	-4.7%	+6.1%	+76.3%
輸入推移			



■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比一三・八%増の六万四、四八〇t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前年比一三%増の六万一、六〇〇tであった。(六面へ続く)

海外銅、ウクライナ情勢などが左右か 為替とも

中国、景気浮揚策の有無にも注目

(四面より続く)

ドル円が一時的に一円台まで進んだことや、発生難、好調な国内生産を背景に国内需要家が原料手当てを急いだため電気銅、スクラップ輸出は減少した。輸入は電気銅が一七・八％増の五、九一八七。スクラップは七六・三％増の九、四二一三。引き続き円高の進行による割安感や内需の好調から、電気銅スクラップともに輸入が増加したとの見解。

【銅需給に関して】

住宅関連は新設住宅着工数が前年比二・三％増の一七カ月連続増加、貸家二・五％増、分譲マンション一八・六％増と大幅増。消費税前の駆け込み需要から依然好調さが伺える。今後の動向に期待。

自動車は生産が五カ月連続上昇の一四・五％増。さらに二月の国内販売台数が前年比一七・三％増と大幅増。前月に続き予測の通り販売増につられて生産が増加。消費税前の駆け込み需要から住宅、自動車需要の二本柱が上昇。

為替が前月から引き続き一〇一〜一〇二円附近と円高が継続。引き続き輸入原材料も割安感が多少台頭したものの、国内原材料へのシフトが見られるが、こちらも発生難から引き続き供給不足が続くとの見解。

ただ企業決算時期でもあり、積極的な買いは手控えられるのではないかと見られる。

【銅価格に関して】

今月は中国の動向、およびウクライナ情勢に左右される。

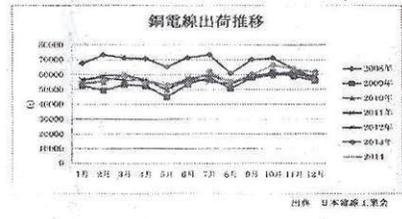
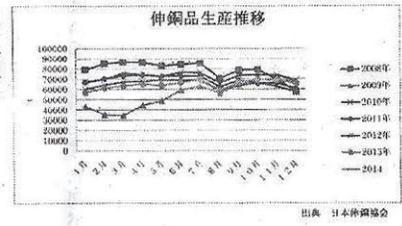
中国の動向に関しては中国人民銀行がレートを引き下げを突然行ったこと、二月の中国HSBC製造業PMI改定値は四八・五に上方修正したものの景気の分岐点となる五〇を下回り、半年ぶりに好不況の境目となる「五〇」を下回ったこと、中誠信託、吉林信託が発行した理財商品が期日まで償還されなかつたことなど後退懸念は強い。

ウクライナ情勢に関してはロシア軍がウクライナ南部のクリミア半島に侵攻。ロシアの軍事介入を見て主要国G7はロシアで行われる予定のG8サミット準備会合への出席を取りやめるなど、経済への悪影響が急速に広がっており、今月中の解決は難しいのではないかと懸念されている。

それらを踏まえた銅価格、上値は、中国が後退懸念に対しての対策をだし、ロシアがウクライナからの撤退をした場合、二月後半高値のもう一段高の七、三〇〇ドルを予測。いずれかの場合は七、二〇〇ドル。下値は前記の景気対策やウクライナ情勢の緊迫化が続いた場合、二月後半もう一段安値の六、八〇〇ドルを予測。

為替は前記景気対策やロシア軍の撤退が行われた場合、一〇三円。上値は景気対策や撤退行われなかつた場合失望感から、九九円まで円高が進むとの予測。

銅建値に関しては七二〇〜八〇〇円程度と予測している。



■見通し

二月は中国の理財商品問題とそれに伴う景気後退観測およびウクライナ情勢の緊迫化に一喜一憂した月となった。

自動車生産は前年比一四・五％増の八六万〇、八〇三と、五カ月連続プラス。乗用車は七三万七、九七六台で九万七、八〇五台・一五・三％の増加、トラックは一・一〇、二七五台で九、八〇七台・九・八％の増加、バスは一・一、五五二台で一、六〇九台・一四・七％の増加。一月の国内需要は四九万六、一〇五台で前年同月比二九・四％の増加、輸出は前年同月比四・九％の減少(実績)。

販売の方は六カ月連続前年超えの前年比一五％増。乗用車一四・七％増、貨物一七・三％増、バス一七・七％増。

新設住宅着工戸数は一七カ月連続増加、前年比一二・三％増(季節調整済み前月比六・四％減)の七・七万戸。

平成二一年度以降、緩やかな持ち直しの傾向が続いてきたが、このところ、消費マインドの改善等もあり、堅調に推移している。

今後は建設労働者の需給状況、住宅ローン金利の動向等を引き続き慎重に見極める必要がある。持家五・九％増、貸家二・五％増、分譲住宅八・六％増、分譲マンション一八・六％増。

伸銅品生産量は前年比一三・八％増の六万四、四八〇tと七カ月連続前年を上回る。内需一三・四％増と五カ月連続増、輸出は円安を追い風に一〇カ月連続前年プラスの一六・三％増。

銅電線出荷量は、前年比二・三％増の六万六、六〇〇t。うち国内一二・三％増、輸出五一・五％増。通信五・七％増、電力二・三％減、電気機械一・三％増、自動車二・〇％増、建設電版一五・一％増。

輸出に関しては、電気銅輸出が前年比一六・七％減の三万八、六〇〇t。銅スクラップは四五・三％減の一・二、八三八t。